

資料6. 寒川町が目指すべき望ましい環境像

1. 望ましい環境像を設定するための根拠

(仮称) 第3次寒川町環境基本計画の策定にあたっては、環境を取り巻く社会情勢の変化や町民のニーズを踏まえ、目指すべき望ましい環境像についても新たに設定したいと考えています。

つきましては、望ましい環境像の設定に向けた根拠として、寒川町の環境を取り巻く状況、アンケート調査で得られた町民等の意見を以下のように把握しました。

■寒川町が目指すべき望ましい環境像を検討するための視点

視点1：寒川町は川や緑の自然の中で地域の暮らしや産業が発展してきた。

⇒寒川町は概ね平坦な地形ですが、これまでの地域の暮らしや産業の発展の舞台は、相模川、目久尻川、小出川などの河川や、それらを取り巻く河川敷や樹林地、田園の緑潤う自然の中にありました。

視点2：近年ではより利便性が高く生活しやすい都市として発展してきている。

⇒近年では、さがみ縦貫道路の全面開通による交通の変化や、寒川駅北口地区、ツインシティ倉見地区、田端西地区を中心とする計画的なまちづくりにより、より利便性が高く生活しやすい都市として、まちの姿が変化しつつあります。

視点3：町民は豊かな自然環境が将来に続いていくことを望んでいる。

⇒アンケート調査を見ると、町民の寒川町の環境に対する評価や意向は、都市化を望む声よりも、自然環境が豊かであること、そしてそれが将来に続いていくことを望んでいることがうかがえます。

視点4：自然は緑を中心に減少している状況にある。

⇒寒川町の地域特性は、前述のように自然環境が豊かであるところですが、その自然は緑を中心に都市化により徐々に減少している状況にあります。

視点5：自然と共生したまちづくりが展開されている。

⇒一方で、都市化にあたっては環境への配慮に留意されるとともに、環境団体と連携した自然環境の保全、創出活動も盛んに行われており、自然と共生したまちづくりが展開されているところです。

視点6：まちづくりにおける環境配慮、リサイクル率の向上など環境への負荷の低減に取り組んでいる。

⇒エネルギーやごみ問題に目を向けると、町民の意識、環境の現状とともに、都市化による環境への負荷が顕在化、懸念されているところですが、町民生活や事業者の事業活動における環境配慮行動を中心に足元からの取り組み、まちづくりにおける環境配慮が積極的に実践されており、リサイクル率の向上などをはじめ、その効果も徐々に表れてきています。

視点7：寒川町総合計画2040では持続可能で幸福度が高いまちを目指している。

⇒寒川町総合計画2040で示されたまちの将来像は「つながる力で、新化するまち」であり、「心豊かな暮らしが出来るまち」、「人口減少など新しい時代に対応する持続可能な新たなまち」などを実現し、幸福度が高いまちを目指しています。

視点 8：持続可能で幸福度が高いまちは良好な環境を基調に置いたまちであってこそ実現される。

⇒このような新たな価値観に基づくまちづくりにあたっては、寒川町の歴史の中で育まれた良好な環境を基調に置いたまちであってこそ実現されるものと考えられます。

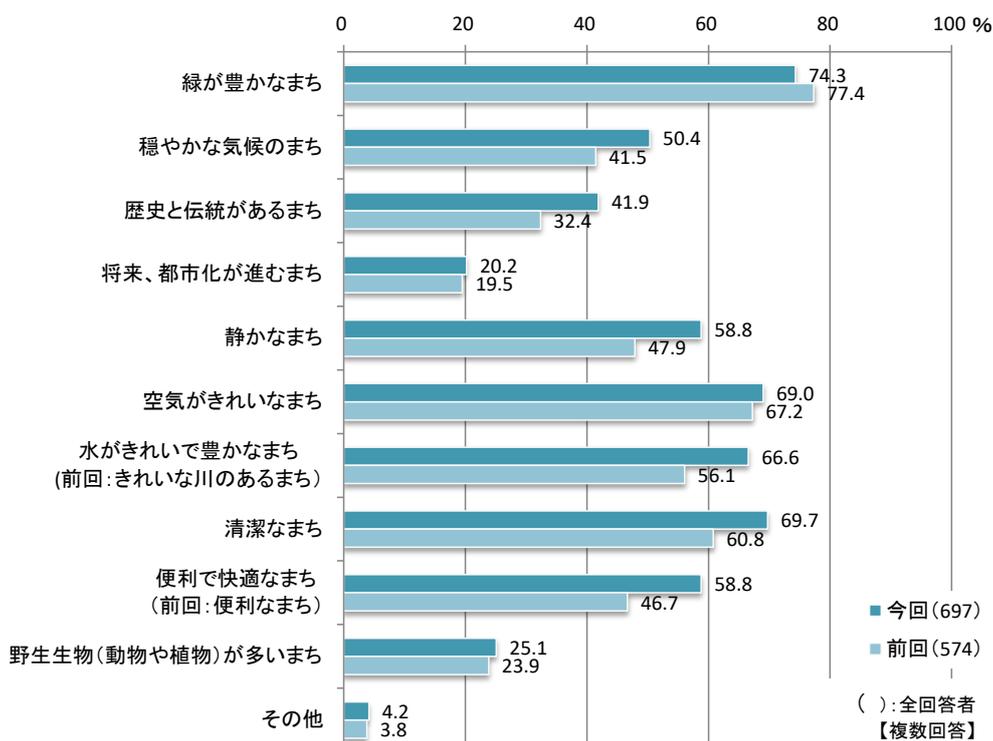
視点 9：持続可能で幸福度が高いまちの考え方は SDGs に資するものと考えられる。

⇒そして、その考え方こそが SDGs が示した「持続可能な開発目標」に資するものであるとも言えます。

■町の望ましい環境像に対する町民の意向

町の将来の姿について町民は、「緑が豊かなまち」、「清潔なまち」、「空気がきれいなまち」、「水がきれいで豊かなまち」が多く望んでいます。

また、「静かなまち」、「便利で快適なまち」への要望も比較的高い結果となっています。



2. 目指すべき望ましい環境像 (案)

前述の望ましい環境像を設定するための根拠を踏まえて、事務局で「3案」の望ましい環境像を検討しました。これらを参考に、(仮称)第3次寒川町環境基本計画の新たな望ましい環境像を決定したいと考えています。

	望ましい環境像 (案)	各案の趣旨
A案	歴史に育まれた守るべき自然と共生する 「新化」する持続可能なまち さむかわ	寒川町総合計画 2040 でまちの将来像として位置付けられている「つながる力で 新化するまち」を環境面から実現するイメージ。
B案	持続可能な社会の構築に向けた、 環境優先の住み心地の良いまち さむかわ	SDGs (持続可能な開発目標) を意識し、良好な環境を守りながら、町民にとっての住みやすさを目指すイメージ。
C案	環境と人が共生し、 次世代まで良好な環境が受け継がれるまち さむかわ	都市として発展していく中で、環境との共生を推進し、それを次世代へ継承していくイメージ。

